

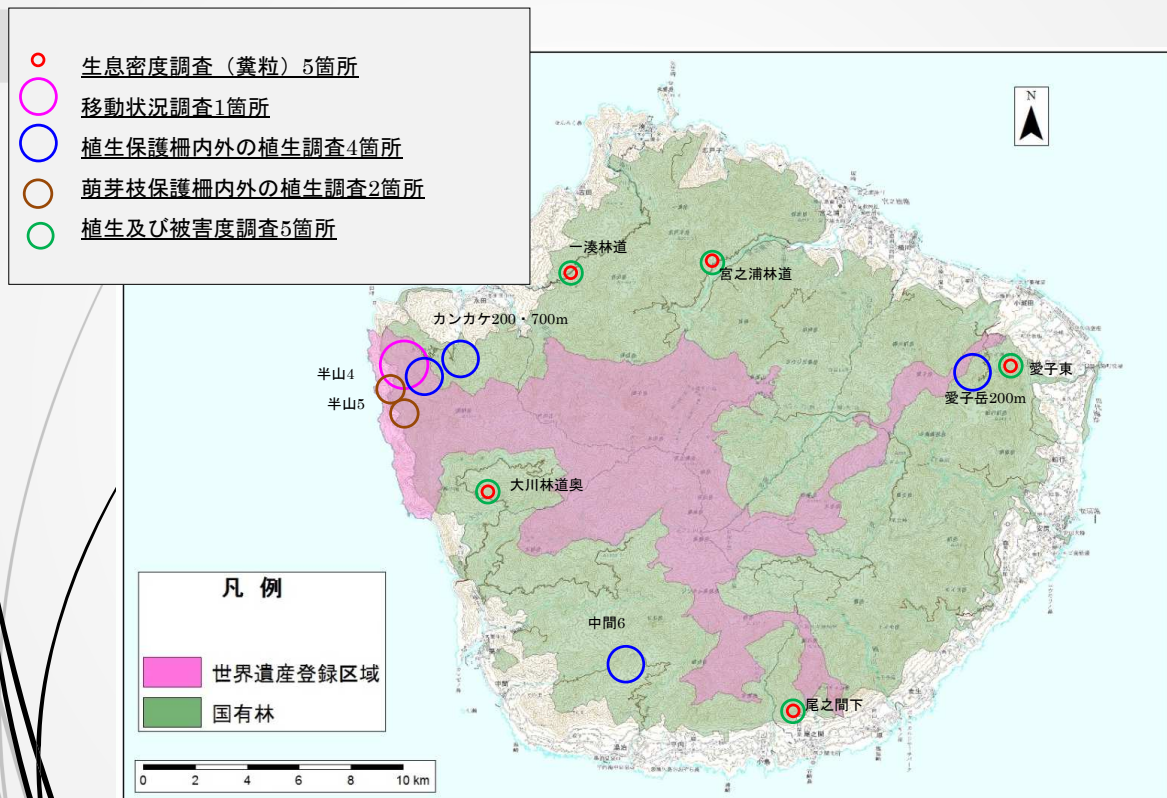
令和元年度林野庁九州森林管理局 による調査事業の概要

令和元年2月15日
林野庁 九州森林管理局

【調査内容】

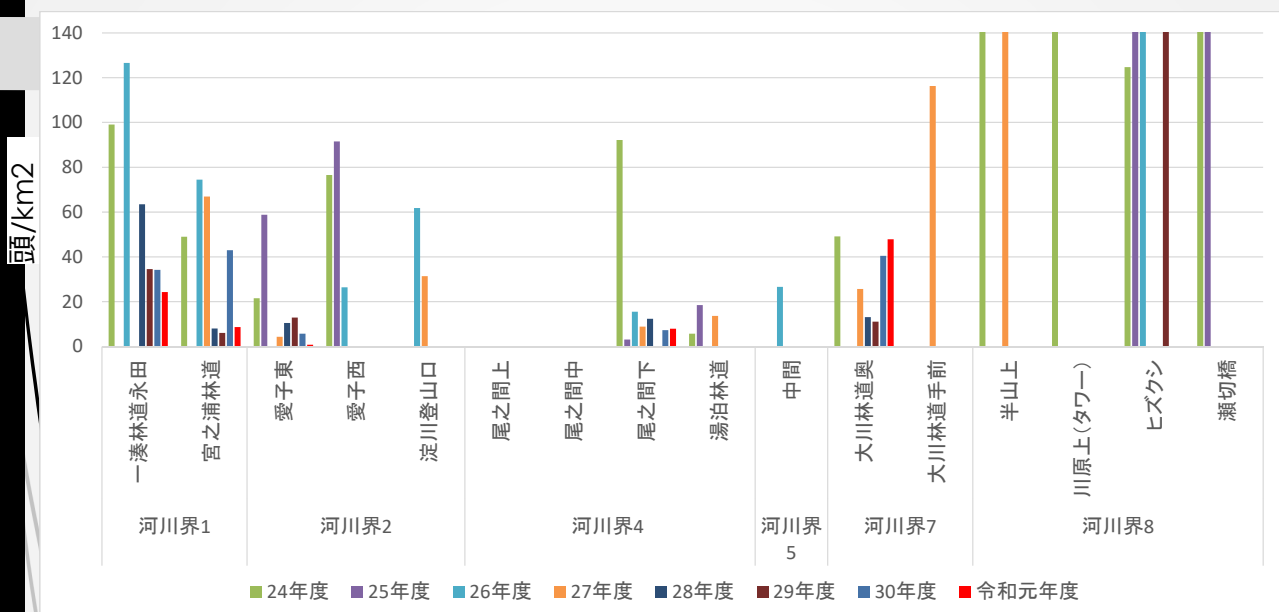
- 1 ヤクシカの生息密度調査のモニタリング調査
(糞粒法による密度調査、植生及び被害度調査)
- 2 ヤクシカの移動状況等調査 (GPSテレメトリー法による調査)
- 3 植生の保護・再生手法の検討 (柵内外の植生調査・保守点検)
- 4 森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価及び指標案の作成
- 5 高層湿原におけるヤクシカの生態調査 (カメラ設置、糞塊調査)

調査箇所（1生息密度、2移動状況等調査、3植生の保護・再生手法の検討）



2

調査結果（生息密度調査）

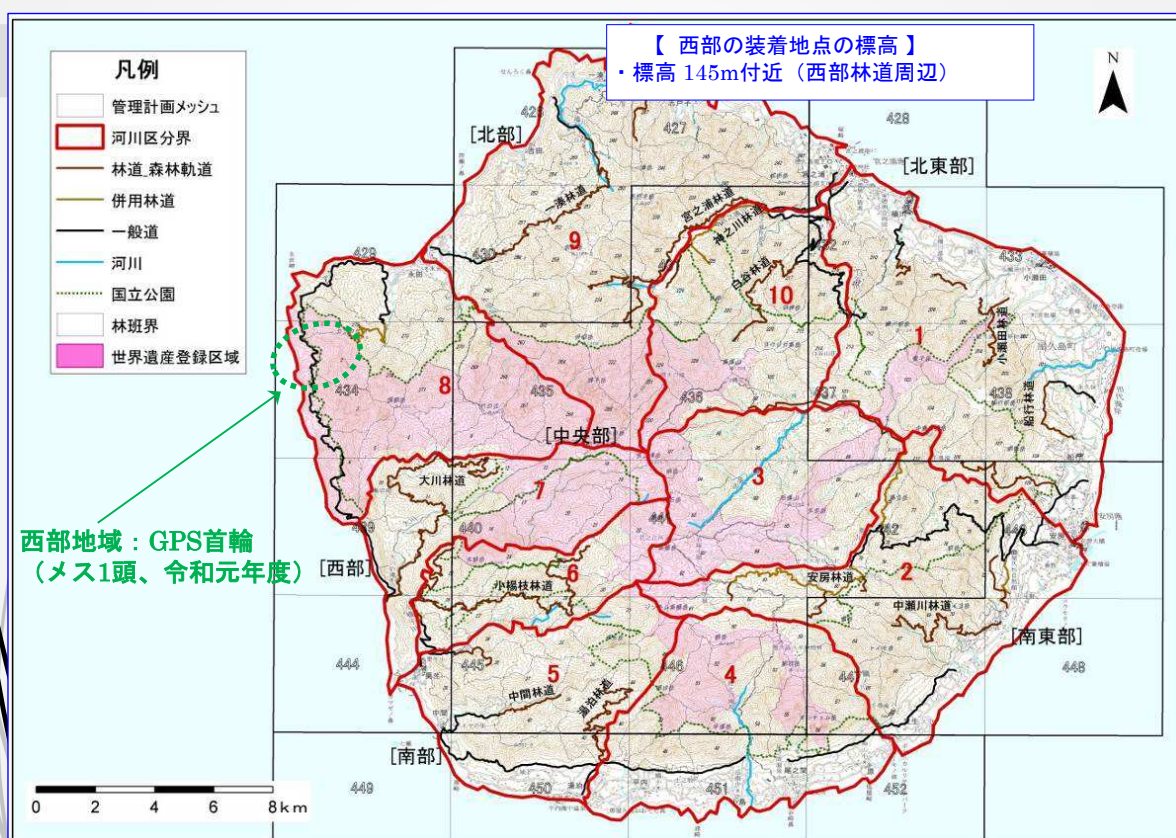


- 中央部の大川林道奥は継続して増加傾向
- 北東部の愛子東、中央部の宮之浦林道では昨年度から大幅に減少
- 南部の尾之間下では昨年度よりやや増加
- 北部の一湊林道では昨年度よりやや減少

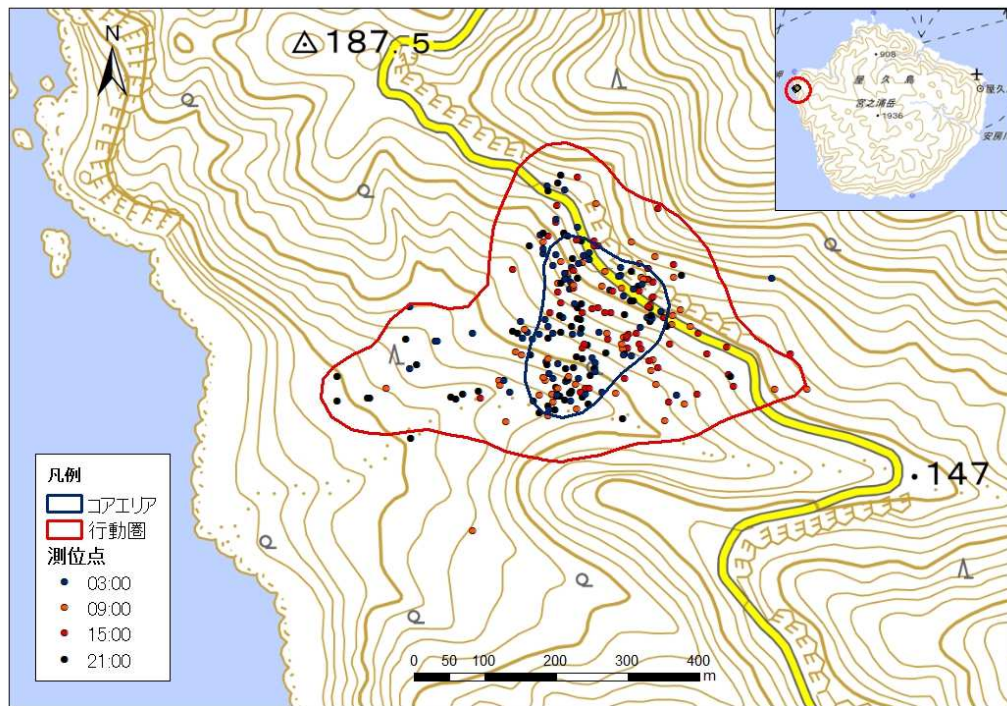
3

- 当項目については、別途資料2-⑦にて報告

調査結果（ヤクシカの移動状況等調査：R1_GPS首輪装着地点）



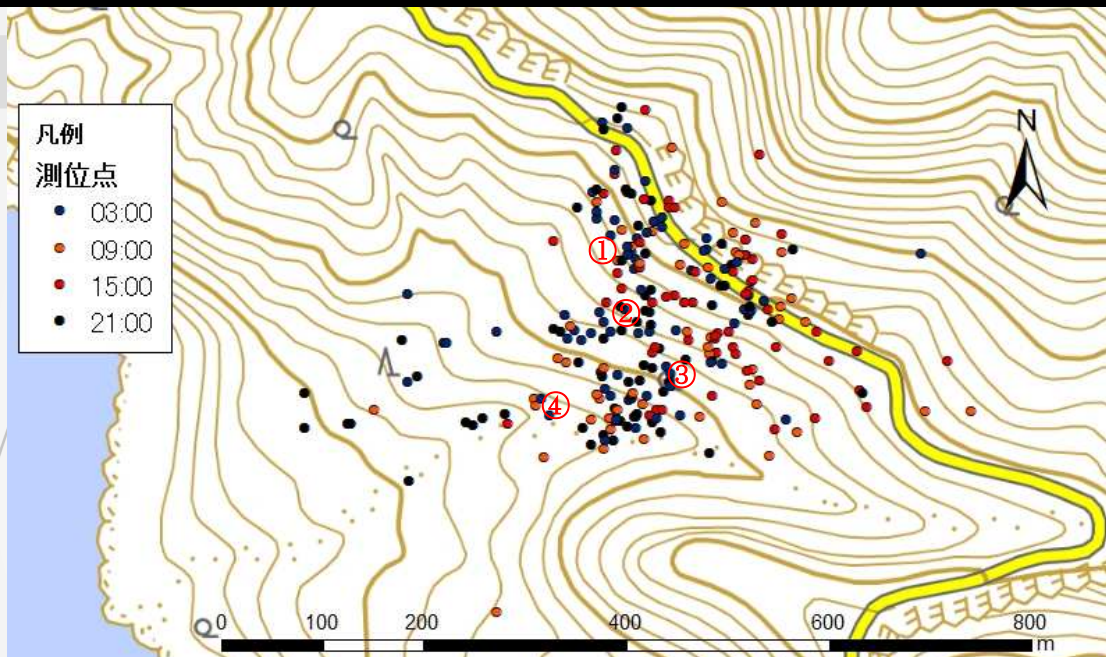
調査結果（ヤクシカの移動状況等調査：行動圏）



- 行動圏は、西部林道の上側斜面から斜面下側に向かった緩傾斜地～平坦地までの約500mの狭い範囲であった。
- 日中は西部林道上の急傾斜地にいることもあるが、基本的には昼夜を通して林道下の緩傾斜地を活動の場としていた。

6

調査結果（ヤクシカの移動状況等調査：環境利用・食害状況現地調査）



- ① 角研ぎあり。樹種はボチョウジ、クロキ、モクタチバナ等。地表には不嗜好植物。
- ② マテバシイ萌芽枝が食害され更新が進んでいない。
- ③ 半山集落の跡地で、石垣が残った平坦地。古い角研ぎあり。
- ④ GPS装着個体を確認。近くに幼獣（子ジカ）がいた。

7

調査結果（ヤクシカの移動状況等調査：写真）

①



②



③



④



8

調査結果（植生の保護・再生手法の検討：保護柵内外の植生調査）

調査箇所	H24 出現 種数	H26 出現 種数	H27 出現 種数	H28 出現 種数	H30 出現 種数	R1 出現 種数	H24 実生本数 (本/100m ²)	H26 実生本数 (本/100m ²)	H27 実生本数 (本/100m ²)	H28 実生本数 (本/100m ²)	H30 実生本数 (本/100m ²)	R1 実生本数 (本/100m ²)
カンカケ200m柵内	10	-	-	31	-	29	125	-	-	375	-	650
カンカケ200m柵外	5	-	-	5	-	12	6	-	-	206	-	75
カンカケ700m柵内	22	-	25	-	22	23	944	-	750	-	869	1125
カンカケ700m柵外	12	-	28	-	24	28	194	-	444	-	619	669
中間6柵内	30	-	-	-	-	28	513	-	-	-	-	375
中間6柵外	22	-	-	-	-	18	531	-	-	-	-	388
愛子200m柵内	33	30	-	34	-	36	556	625	-	625	-	963
愛子200m柵外	25	29	-	36	-	37	375	500	-	513	-	856

- カンカケ200mで出現種数と実生本数に、中間6で出現種数、カンカケ700mでは実生本数についてそれぞれ大きな差が見られ、柵の効果が表れていると考えられる。
- 中間6では実生本数、愛子200mは出現種数・実生本数とも柵内外であまり変化が見られなかった。
- カンカケ700m、中間6についてはミヤマノコギリシダ、ホソバカナワラビといった中型の葉を広げるシダ類が、柵内でも林床を広く覆う箇所が出現し、植物間の競争が出ている可能性がある。

9

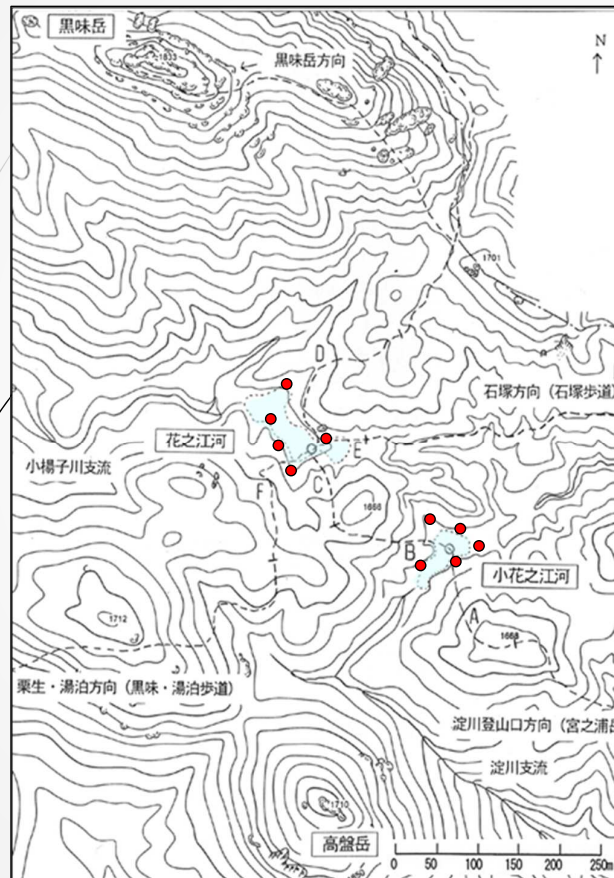
調査箇所	R1 出現 種数	不嗜好 植物数	不嗜好 植物の 割合 (%)
カンカケ200柵内	29	12	41.4%
カンカケ200柵外	12	7	58.3%
カンカケ700柵内	23	15	65.2%
カンカケ700柵外	28	18	64.3%
中間6柵内	28	15	53.6%
中間6柵外	18	9	50.0%
愛子200m柵内	36	21	58.3%
愛子200m柵外	37	18	48.6%

- 不嗜好植物種の出現割合については、カンカケ200mを除いて、柵内の方がやや高い。
- 出現種数や個体数については、カンカケ200mと中間6において柵内の方が多くなっており、カンカケ700mと愛子200mにおいてはあまり変わらなかった。

4 森林生態系の管理目標案の作成

- 当項目については、別途資料3にて報告

5 高層湿原等におけるヤクシカの生態調査（カメラ設置箇所：高層湿原）



花之江河・小花之江河に各5箇所、計10箇所に自動撮影カメラを設置（赤のポイント）

12

5 高層湿原等におけるヤクシカの生態調査（撮影画像の例）



水路を飛び越えるヤクシカ（花之江河2019/9/11）



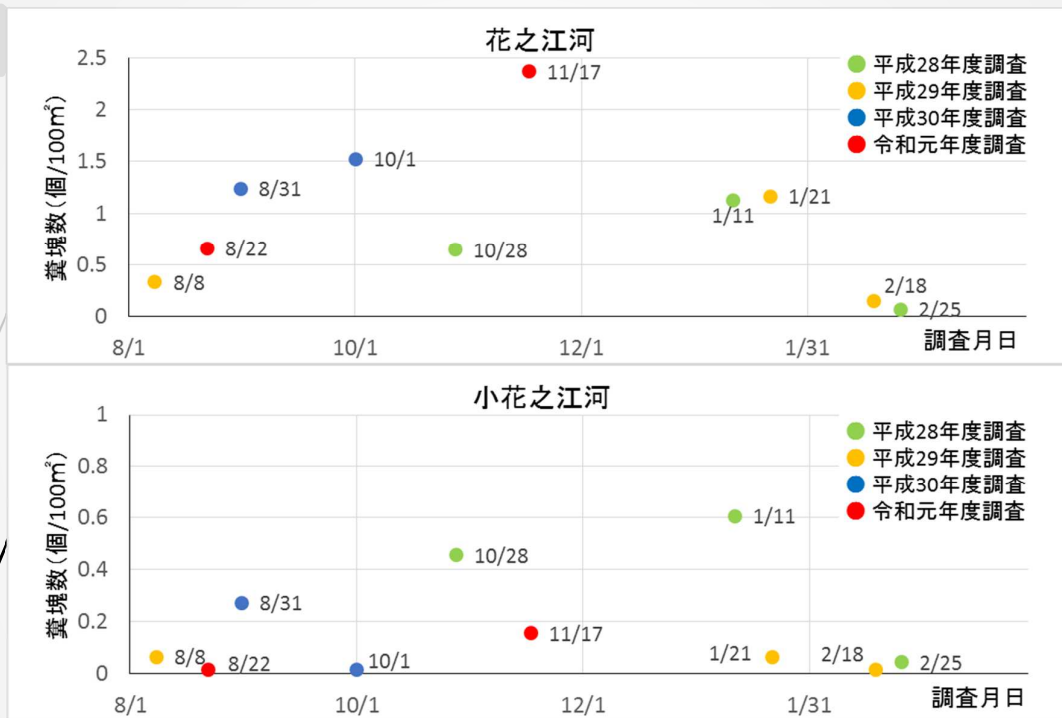
ぬかるみで探餌
（小花之江河2019/8/27）



水路を渡る雌2頭（奥は雄）
（小花之江河2019/9/23）

13

5 高層湿原等におけるヤクシカの生態調査（糞塊調査）



- 11月に初めて糞塊調査をしたが、天候が安定していたこともあり、多くの糞塊を確認した。8月の確認数の減少は台風の影響もある。
- 例年どおり花之江河の方が確認数が多い。